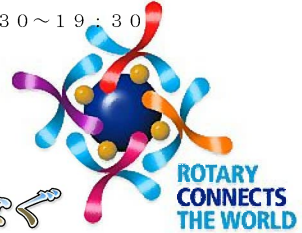


皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 ◇例会場 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
 ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134
 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp
 ◇点 鐘 畝 徳治会長
 ◇ソング 奉仕の理想



ロータリーは世界をつなぐ

第1490回例会 令和元年10月24日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんにちは。今年度福沢諭吉の学問のすすめの内容を抜粋してお話しています。

今回は何のために学問するかという目標に着目した所です。段落毎に名前が付いているわけではありませんが、名前を付けるとすれば「智恵の鋒を争う相手は外国人なり」という事で、国内で日本一になったのではまだダメだということの意味合いです。外国人と言いましては、150年くらい前のヨーロッパ先進国を指しています。中国とか朝鮮については一緒に進むように呼びかけていたというのが事実です。アジア人とヨーロッパ人という考え方がいいと思います。



十編の後半を読んでみます。今わが国内に雇い入れたる外国人は、わが学者未熟なるがゆえにしばらくその名代を勤めしむるものなり。今わが国内に外国の器品を買い入るは、わが国の工業拙なるがゆえにしばらく銭と交易して用を便ずるものなり。この人を雇いこの品を買うがために金を費やすは、わが学術のいまだ彼に及ばざるがために日本の財貨を外国へ棄つることなり。国のためには惜しむべし。学者の身となりては慚ずべし。かつ人として前途の望みなかるべからず、望みあらざれば世に事を勉むる者なし。明日の幸を望んで今日の不幸をも慰むべし。来年の楽を望んで今年の苦をも忍ぶべし。

農となり、商となり、学者となり、官員となり、書を著わし、新聞紙を書き、法律を講じ、芸術を学び、工業も起こすべし、議院も開くべし、百般の事業行なうべからざるものなし。しかもこの事業を成し得て、国中の兄弟相闘ぐにあらず、その智恵の鋒を争うの相手は外国人なり、この智戦に利あればすなわわが国の地位を高くすべし。・・・

学問につく者のうち、まれには学業いまだ半ばならずして早くすでに生計の道を求むる人ありと。生計もとより軽んずべからず。あるいはその人の才に長短もあることなれば、後来の方角を定むるはまことに可なりといえども、もしこの風を互いに相倣い、ただ生計をこれ争うの勢いに至らば、俊英の少年はその実を未熟に残すの恐れなきにあらず。本人のためにも悲しむべし、天下のためにも惜しむべし。かつ生計難

しといえども、よく一家の世帯を計れば、早く一時に銭を取りこれを費やして小安を買わんより、力を労して儉約を守り大成の時を待つに若かず。学問に入らば大いに学問すべし。農たらば大農となれ、商たらば大商となれ。学者小安に安んずるなかれ。

明治9年、札幌農学校での任期を終え、生徒たちとの別れの際にクラーク博士が「Boys be ambitious (少年よ大志を抱け)」という言葉を残しました。福沢も家計を維持するための目標ではなく、その上を目指しなさいと全く同じ趣旨を学問のすすめで述べていたということが分かります

【幹事報告】

山田 利明



1. 地区事務所より
 - ① 米山記念奨学部門卓話の件
 - ② R L I 研究会パートIIのお知らせ
2. 米山記念奨学会より
 - ① ハイライトよねやま
 - ② よねやま月間資料の案内

ロータリーの友地区代表委員
 会員増強委員会副委員長

岡部 みゆき様



今日はたまたま世界ポリデーです。読売新聞に2770地区と合同で広告が出ています。公共イメージ委員会担当です。私が所蔵していた直前の委員会です。

今日は友の委員として、ロータリーの友に投稿して下さいというお願いと12月14日に熊谷で増強フォーラムを開催致します。非ロータリアンを連れてきて下さいという鈴木ガバナーの肝いり事業でございます。あるクラブに行きましたら、せっかく入れようと思っている人をそんなセミナーやフォーラムに連れていったら、嫌がられて入らなくなっちゃうよと言われて、目から鱗が落ちたのですが、非ロータリアンの方にロータリーの事を知ってもらう機会として、ミャンマーの米山奨学生にスピーチしてもらい、50代までのスピーカーを第1から第5までそろえました。非ロータリアンをお連れにならなくても、来て頂くと2570地区が変わろうとしている

なという気運を感じて頂けるのではないかと思います。12月14日、13時から90分でやりますので、よろしくお願い致します。

米山記念奨学部アドバイザー 大澤 衛様



こちらのクラブは初めての訪問になります。長岡さんには米山の先輩でいろいろと教えて頂きました。宮前さんには多額の寄付を頂いております。

自己紹介を含めて中国の湖南省からみえている王さんから卓話をして頂きます。

米山記念奨学生

王 双さん



中国の留学生の王双と申します。和光クラブにお世話になっております。カウンセラーは大澤さんです。先ほどは美味しいお昼をご馳走になりまして、ありがとうございます。鍋の蓋を開ける時に熱いと叫ぶくらい、皆さんのおもてなしの熱さを感じました。

本日は4つのカテゴリーについて、自分の出身地について、また自分のロータリーへの理解を少しでも伝えられたらいいなと思い、皆様に興味を持って聞いて頂ければうれしいです。

自己紹介をさせていただきます。私は90年の生まれです。30代に向かっています。短大を卒業してから普通の会社に勤めていました。当時は人事総務の仕事でしたが、翻訳の仕事も任せられました。日本語を通して仕事が出来た事に誇りを持っていました。会社を辞めて戸惑っているところで、小学校の教師になりました。私が勤めていた小学校は地元の小学校でした。

日本の小学校とはイメージが違います。中国では靴を履き替えて建物に入るという習慣は無くなりました。特に農村地方は土足で室内に入りますので、床がちょっと汚く見えます。教室の後ろにもロッカーも何もないです。子供達は道具とか筆記用具とか引き出しの中、カバンの中に入れてあります。子供達が1日中学校の制服を着ています。汚れても着替えません。

私が小学校の先生になって始めて、保護者以外のもう1人のお母さんになったような気がしました。子供達に勉強を教える事はもちろんですが、子供1人、1人の状況を把握し、学習状況や健康状態などを管理とか、学級経営とか課外活動、保護者との連絡などの仕事内容でした。中国の教育はやはり成績中心で授業ばかりしていました。外に出る授業とか活動はわずかです。

その時に自分は考えました。教育って一体何か。教育はこれでいいのかとか考えました。ある日ネットで日本の小学生の一日の流れという動画を見て、インパクトを受け感心しました。こういう教育理念もあるのだと感じて、留学する決心する切っ掛けでもあります。2017年に日本に留学しました。現在は十文字大学学園女子大学の2年生に在籍しています。来年の3月に卒業予定ですが、卒業してから日本の大学院に進学するつもりです。

次に家族ですが、5人家族の次女です。姉と

弟がいます。私が生まれた時代は中国は一人っ子政策の時代でした。にも関わらず2人の兄弟がいます。一人っ子政策でしたが、国の政策に逆らっても男の子を産みました。男尊女卑だと思いますが、両親は弟の事を中心に育てるつもりはなく、3人兄弟を平等に育ててくれました。父は家を建てるとか、家のメンテナンス、エレベーターのメンテナンス等の仕事をしてます。母は主婦です。姉は一度就職してからイタリアに留学してオペラを選考しています。弟は会社にも勤めましたが、現在は起業してネットショップを運営しています。普通の家族ですが、難局を乗り越えるため努力して、お互いに愛し合っている事は私にとって幸せな事です。

日本に来て、両親の負担にならないためにアルバイトをして、学費や生活費を背負いましたが、米山記念奨学生になって助かりました。心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。

次は出身地の湖南省についてお話します。中国には黄河と長江の大きな2つの大きな川があります。長江以下は南とみなされていますので、湖南省は南です。夏はとても暑く、冬はとても寒い所です。ですが湖南省は魅力的な地方です。毛沢東の故郷も湖南省です。長江が流れているので、湖南省の略称は湘です。

料理についてですが、中国は地域によって8つくらいの料理に分けられていますが、湖南省はその中の有名な料理です。湖南料理は中国人が湘菜と言います。湖南料理と言うと、辛いです。何でも唐辛子を入れます。魚の頭やザリガニ、へびの料理もあります。普通の豚肉炒めでも唐辛子がたくさん入っています。さっぱりした物で豚の足とか好きです。鶏の足もあります。なんでも辛いです。辛い料理が食べられなかったら幸せになれないという話もあります。四川省の辛さに負けない湖南料理です。

観光ですが岳陽楼、三国志時代建てられた建物だそうですが、一つのテグも使わない構造です。岳陽楼記という散文がありまして、その中には「天下の憂いに先立ちて憂え、天下の楽しみに後れて楽しむ」という名句があります。私はこの名句をロータリーの社会奉仕によく似ているのではないかと思います。ロータリーは人より先じて苦しんでいる人達を助けて、人が助けをもらって、幸せになってこそロータリーの社会奉仕への意義が持続していく事が繋がるのではないかと考えています。次に洞庭湖ですが、これは面積では中国で第2の湖です。魚が豊富です。八百里洞庭の里と称されています。私と故郷の人達は洞庭湖に恵まれて生きています。張家界という所が中国の自然景色で有名です。1992年に世界自然遺産に認められました。黒い建物が残っている所ですが、鳳凰湖城もあります。苗族という少数民族が住んでいる所にはこういった建物があります。綺麗な民族衣装もあります。頭の飾りは銀です。銀の飾りが多ければ多いほど良いとされています。

今年の4月から米山記念奨学生になって、毎月の例会や活動に参加する度に感じた事全てについて、3つの言葉にまとめました。「絆、実勢の場、思いやり」です。ロータリーは私達を経

済的に支えてくれるだけではなく、色々な活動の機会やコミュニケーションの場を作ってくれて、心から支援してくれています。

奨学生になってから自分がいろいろな絆として存在している事に気づきました。学友として国際的な絆、中国と日本の絆、社会への奉仕の絆、世界の平和を発信する絆、ロータリー米山奨学生にあこがれている人達にも米山奨学会の事を伝えたりする絆として存在している事に気づきました。もう1つ感じた事は思いやりです。世話クラブの皆様から私の誕生日に花束を頂いたり、名刺を渡す時に名刺入れがない事に気づいて、名刺入れをくださったカウンセラーさん、何かあったら何でも言ってくださいと何回も言って下さったカウンセラーさん、奨学生達、学友会の皆さん、クラブの皆さんの心の優しさを感じまして、私は幸せな事と感じます。このような優しさを頂いた私も優しくなったかもしれません。それはまたロータリーの一つの魅力ではないかと思います。身のまわりの人によい影響を与えるという所は素晴らしい事だと思います。

今回の米山記念奨学生になった経験を活かして、「人生のフルーツと」いうドキュメンタリーの映画の中の台詞ですが「風が吹けば、枯葉が落ちる。枯葉が落ちれば、土が肥える。土が肥えれば、果実が実る。こつこつ、ゆっくり」私の理解としては、この世界の全ての事は自分一人の力で出来たものではありません。果実でも自然の中のいろんな力を借りながら出来た物です。成熟後に他の物に役立ちます。我々人間もそうだと思います。ロータリーで得た助けや思いやりや優しい心が将来私の力になって身のまわりの人の助けになれると思います。そして助け合えます。日本で学んだ知識、身につけた技能とかを活かして中国の教員の現場に行き、よりよい教育は何かを探して発信して行きたいと思っております。日本に留学している間に中国の事も伝えていきたいと思っております。

これからもこつこつ、ゆっくり。両国の架け橋として頑張っていきたいと思っております。



ニコニコボックス

♪本日は米山記念奨学生の卓話に同行致しました。よろしくお願い致します。

和光RC 大澤 衛様

♪お世話になります。

坂戸さつきRC 岡部みゆき様

♪和光RC大澤様、坂戸さつきRC岡部様、卓話者 王双様をお迎えしての例会です。お世話になります。

畝 徳治・山田 利明・宮前 英雄
長岡 倉雄・高田 富康・小林 一夫

合計 8,500 円

出席率 72.7%